

国内最大級石炭火力発電計画と気候変動に関する意識調査

千葉袖ヶ浦火力発電所1、2号機（仮称）近隣市1000人アンケート結果

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパンは、出光興産（株）、東京ガス（株）、九州電力（株）が千葉県袖ヶ浦市で計画している大規模石炭火力発電所（1、2号機合わせて200万kW）について、袖ヶ浦、木更津市、市原市、千葉市在住の1000人を対象に意識調査を行いました（注）。今回の調査では、地域の石炭火力発電所の新設についての設問を中心としつつ、環境問題や政策への意見も合わせて聞きました。

【調査結果のまとめ】

◆最も関心の高い環境問題を尋ねたところ、地球温暖化を上げる人が55.9%と最も多く、理由としては、気象災害の増加のほか、社会的影響としては将来世代の社会環境への影響を心配する意見が最も多くあった。この傾向は特に子や孫のいる人ではより強く、この夏の気象災害や猛暑を背景に、将来影響が深刻化する気候変動への懸念がはっきり表れているといえる¹。

◆一方、その主要な原因であるCO2排出源については認知度が低く、火力発電の中で石炭火力発電が最も多く二酸化炭素を排出することは半数以上が知らないと回答した。また窒素酸化物や水銀などの大気汚染についても8割以上が心配している反面、石炭火力発電所が排出源の一つであることへの認知度は低く、子や孫のいる人では半数以下だった。

◆当該石炭火力発電所の建設については、8割以上が知らず、環境アセスメントが実施されていることにはほとんど認知がなく、意見を述べたことのある人は1.4%に過ぎなかった。計画の是非を問う設問で「情報がなくて答えられない」が37.8%と、反対意見に次いで多かったことから、住民への情報提供や、環境アセスメントで住民意見を取り入れるしくみが機能していない実態が浮き彫りになった。

◆地球温暖化に対する政策については強化を求める声は6割近くにのぼり、持続可能な自然エネルギーの推進を求める声は80%を超えた。地域で支援してほしいエネルギー源は太陽光や風力など上位を自然エネルギーが占める結果となった。

10月8日に発表されたIPCCの特別報告書によれば、世界の平均気温を産業革命前と比べて1.5°Cまでに留めることは必須の目標です。そのためには、2030年までに石炭消費量を少なくとも3分の2に削減し、2050年までには石炭火力発電をほぼゼロにし、世界で自然エネルギーが電力の70-85%を供給する必要があります。それは、日本のような先進国には、これ以上の取り組みが求められるということでもあります。

¹ グリーンピース・ジャパン 「異常気象と気候変動、石炭火力発電に関する意識調査」 2018年8月21日
http://www.greenpeace.org/japan/Global/japan/pdf/20180821_opinion_poll.pdf

このような未来像は、本調査結果から読み取れる住民が望むあり方に近いものと言えます。企業および政府は、気候変動のリスクを少しでも小さくするため、**新たな石炭火力発電の余地はもはやないことを認識し、当該計画をやめ、自然エネルギーへのシフトを急ぐべきです。**

(注)

- グリーンピースが楽天インサイト株式会社に委託して実施したオンラインアンケート調査
- 調査期間は2018年9月21日～26日
- 回答者1000人は4市（袖ヶ浦、木更津市、市原市、千葉市）すべてに分布
- 10代から80代の男女（女373人、男性627人）

【設問と回答の要約】

- **最も関心のある環境問題は、「地球温暖化」が55.9%で最も高く、次いで大気汚染が7.2%だった。**
- **地球温暖化と回答した人（599人）にその理由をきいたところ**
 - A群（主に自然への影響）では、「**異常気象や気象災害の増加が心配**」が**80%超**だった
 - B群（人、社会への影響）では、「**子どもや孫の世代の社会環境への影響が心配**」**最多の47.4%**で、次いで「**健康への影響が心配**」が**29.7%**だった。18歳以下の子や孫のいる人（599人のうちの158人）に限っては、それぞれ60.1%、22.8%と、将来世代を心配する回答が際立った
- 窒素酸化物（NOx）や硫黄酸化物（SOx）、水銀、PM2.5などによる**大気汚染について心配する人は81.4%**にのぼるのに対し、**石炭火力発電所もそれらの排出源**となっていることを知っている人は**60.1%**にとどまった。（18歳以下の子や孫のいる人 [n=288] に限ると46.5%と半数以下だった）。
- 火力発電の中で**石炭火力発電が最も多く二酸化炭素を排出することは51.2%**と半数以上が知らなかった。（同38.9%）
- **袖ヶ浦市に新たな大規模石炭火力発電所の建設が計画**されていることは全体の**81.8%**が知らなかった。（同86.5%）
- 計画を「知っている」とした182人の中で、**環境影響アセスメント**が実施されていることも知っていた人は18.1%、意見を提出した人は7.7%にとどまり、全体の中ではそれぞれ**4.7%、1.4%**に過ぎないことがわかった。
- 同火力発電所の建設の是非については、**強く反対・どちらかといえば反対をあわせると39.8%、情報がなくて答えられないが37.8%**、とても賛成・どちらかといえば賛成を合わせると10.9%だった。
- **地球温暖化に対する政府の対策**については、「**足りないのもっとやるべき**」が**最多で58.7%**、「**十分対策が取られている**」とした2.7%を大きく上回った。
- 危険な気候変動を回避するために、**政府や行政が省エネや持続可能な自然エネルギーを推進すべきか**という問いには、「**ぜひ積極的に推進してほしい**」とした人が**最多の45.7%**で「**どちらかといえば推進してほしい**」と**あわせて80.7%**にのぼった
- 今後、**地域の電源として政策的な支援や投資をしてほしい電源**をきいたところ（複数回答）、多い順に**太陽光（68.0%）、風力（51.6%）、水力（33.4%）、地熱（29.7%）**などとなり、**自然エネルギーが上位を占めた。**

【データ編】

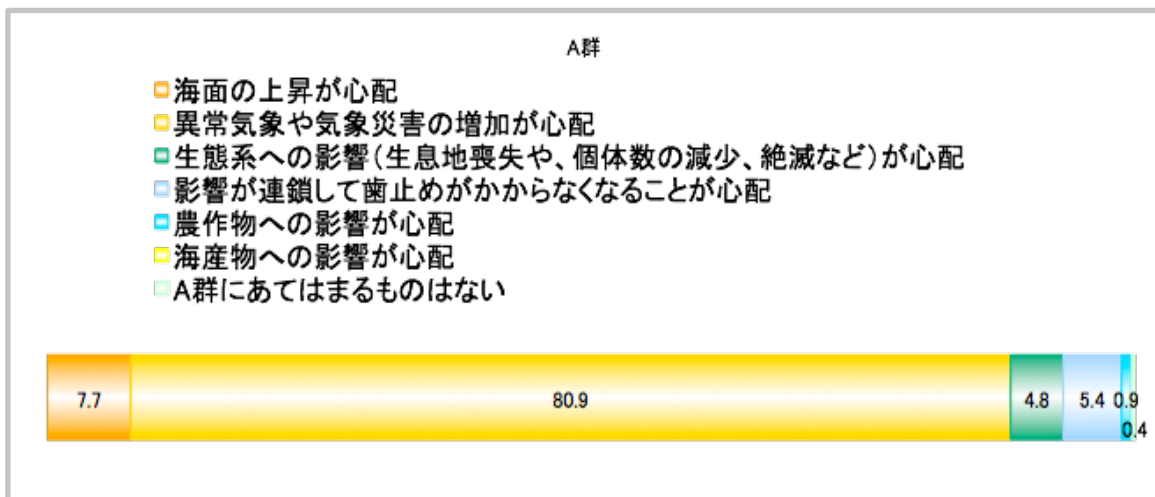
Q.1 あなたが最も脅威を感じる地球環境問題は何ですか、一つ選んでください。※「その他」は20文字以内でお答えください。

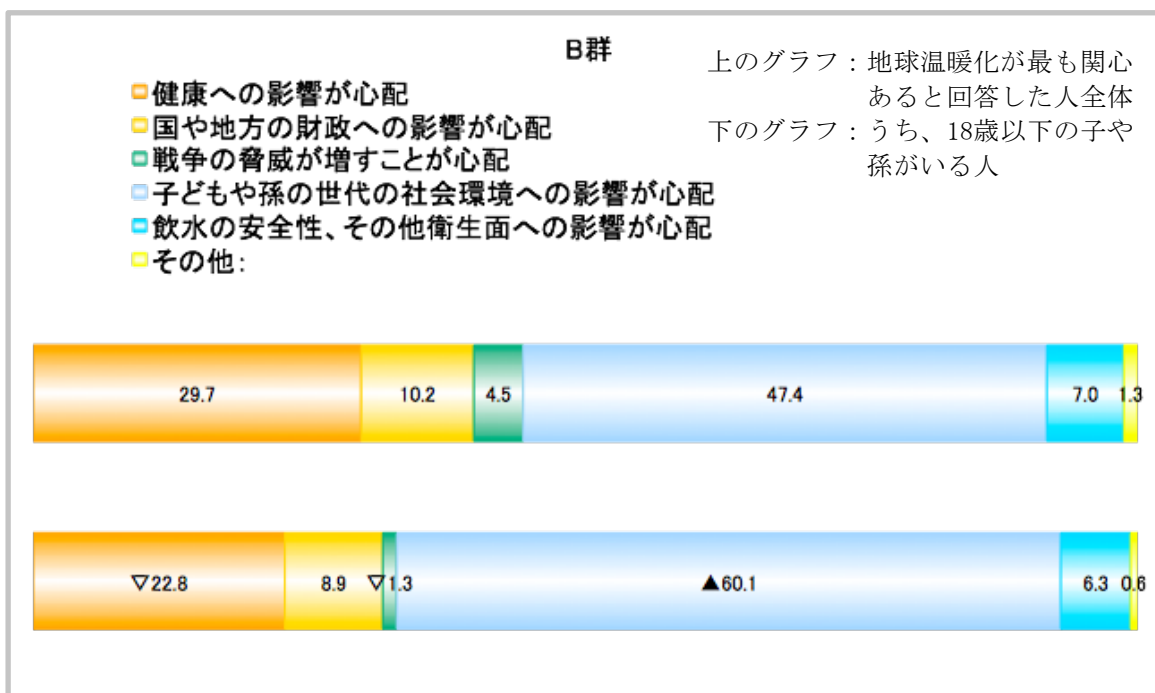
- プラスチック汚染
- 地球温暖化
- 森林破壊
- 大気汚染
- 水質汚染(川や湖沼、飲料水など)
- 海洋汚染
- 過剰漁業
- 遺伝子組換え作物による環境汚染
- その他:
- 特にない



Q.2 前問で「地球温暖化に最も脅威を感じる」と回答したのはなぜですか？（前問で地球温暖化と回答した559人への質問）最もあてはまるものをA群、B群からひとつずつ選んでください。

A群	B群
<ul style="list-style-type: none"> - 海面の上昇 - 異常気象や気象災害の増加 - 生態系への影響 (生息地喪失や、個体数の減少、絶滅など) - 影響が連鎖して歯止めがかからなくなること - 農作物への影響 - 海産物への影響 	<ul style="list-style-type: none"> - 健康への影響 - 国や地方の財政への影響 - 戦争の脅威が増すこと - 子どもや孫の世代の社会環境への影響 - 飲水の安全性、その他衛生面への影響 - その他（自由記入 20文字まで）





Q.3 窒素酸化物（NOx）や硫黄酸化物（SOx）、水銀の排出やPM2.5の発生など、石炭火力発電所が大気汚染の原因となることを知っていましたか。

- 知っていた
 だいたい知っていた
 ほとんど知らなかった
 知らなかった



Q.4 窒素酸化物（NOx）や硫黄酸化物（SOx）、水銀、PM2.5などによる大気汚染について、あなたはどのように思いますか。

- とても心配だ
 ある程度心配だ
 そんなに心配ではない
 全く心配していない
 意見はない



Q.5 石炭火力発電所は、地球温暖化の原因である二酸化炭素の主要な排出源のひとつでもあります。火力発電の中でも石炭火力発電が最も多く二酸化炭素（単位あたり）を排出すること知っていますか。

設問	知っていた (%)	知らなかった (%)
千葉県 (1000人)	48.8	51.2
18歳以下の子や孫のいる人のみ (288人)	38.9	61.1

Q.6 あなたの住む地域に新たに大規模な石炭火力発電所の建設が予定されています※。このことをあなたはご存知でしたか※建設予定地：袖ヶ浦市中袖事業者：出光興産株式会社、九州電力株式会社、東京ガス株式会社の出資する新会社（株）千葉袖ヶ浦エナジー

設問	知っていた (%)	知らなかった (%)
千葉県 (1000人)	18.2	81.8
18歳以下の子や孫のいる人のみ (288人)	13.5%	86.5

Q.7 その石炭火力発電所の建設が予定されていることを何からお知りになりましたか。（いくつでも）

	全体 (%)	こどもがいる人 (%)
(行政や事業者から)直接説明を受けたから知っている	6.0	5.1
県や市の広報に載っていたから知っている	22.2	15.4
(行政や事業者以外の)人から聞いて知っている	11.8	17.9
報道で見た	50.8	28.2
その他の情報源	17.0	23.1
知っているが情報源はおぼえていない	11.9	17.9

注) Q6で「知っている」と回答した人にものみ聞いた

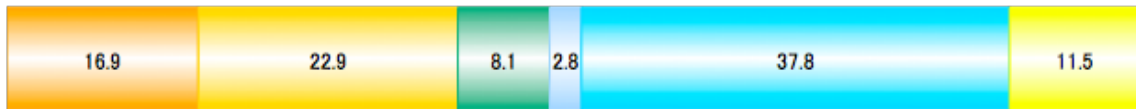
Q.8 あなたの住む地域に石炭火力発電所の建設が予定されていることを「知っていた」と答えた方にお伺いします。石炭火力発電所を建設するとき、それが環境にどのような影響を与えるかについて、あらかじめ事業者が調査・予測・評価を行い、その結果を公表し、住民や、地方自治体などから意見を聴いて、環境の保全の観点からよりよい事業計画を作るための「環境アセスメント（環境影響評価）」という手続きがあります。前述の石炭火力発電所について、あなたにあてはまるものを選んでください。

- 環境アセスメントが実施されていることを知っており、意見も提出した
- 環境アセスメントが実施されていることを知っており、アセスメントの文書を読んだことがある(意見は提出していない)
- 環境アセスメントが実施されていると知っていたが、具体的なことは知らなかった
- 環境アセスメントが実施されていること自体を知らなかった



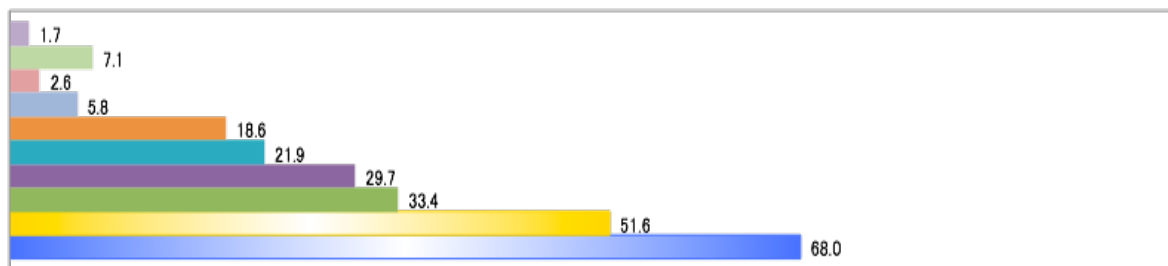
Q.9 新たに建設が予定されている石炭火力発電所について、地域（近接自治体を含む）の住民としてあなたはご意見をどう思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

- 強く反対
- どちらかといえば反対
- どちらかといえば賛成
- とても賛成
- 情報が足りなくて答えられない
- 特に意見はない



Q.10 お住まいの地域で、この先電力を供給するために、政策的な支援がえられたり、投資がなされたりするとしたら、どの電力源がいいですか。（いくつでも）※「その他」は20文字以内でお答えください。

- その他
- 原子力
- 石炭
- 石油
- 天然ガス
- バイオマス
- 地熱
- 水力
- 風力
- 太陽光



Q.11 世界気象機関による分析では、世界的に猛暑や豪雨は地球温暖化の結果増加しており、長期的な地球温暖化による傾向と関係しているという見解が示されています。地球温暖化に対する政府の対策について、あなたはどのように感じていますか。

- 十分な対策が取れていると思う
- 対策としては足りないが仕方ないと思う
- 対策としては足りないのもっとやるべきだと思う
- あまり関心がない



Q.12 危険な気候変動を回避するために、政府や行政が省エネや持続可能な自然エネルギーをもっと積極的に推進するべきだと思いますか。

- ぜひ積極的に推進してほしい
- どちらかといえば推進してほしい
- どちらかといえば推進しなくていい
- 推進しないでほしい
- 特に意見はない



お問い合わせ：

国際環境NGOグリーンピース・ジャパン
 気候変動・エネルギーチーム 関根彩子
 TEL 03-5338-9800 FAX 03-5338-9817
<http://www.greenpeace.org/japan/ja/>